

環境ビジョンと環境長期目標

「環境ビジョン」と「日立環境イノベーション2050」

日立は、グローバルあるいはローカルな環境負荷低減に対する企業としての社会的責任を果たすため、事業を通じて課題解決を図っていくことを経営戦略に据えています。2015年の気候変動に関するパリ協定の採択、国連におけるSDGs制定を踏まえ、日立は2016年9月に、「環境ビジョン」および環境長期目標「日立環境イノベーション2050」を策定しました。この環境長期目標の達成のため、短期的なアクションプランである「環境行動計画」を3年ごとに定めています。現在は、「2021中期経営計画」に合わせて策定した「2021環境行動計画」(2019-2021年度)に取り組んでおり、同計画で設定した詳細なKPIを達成すべく、実績を着実に積み上げています。

これら環境ビジョンおよび環境長期目標を軸とする日立の環境戦略は、執行役社長兼CEOを議長とするサステナビリティ戦略会議で審議され、日立全体で推進しています。

環境ビジョン

日立は、ステークホルダーとの協創による社会イノベーション事業を通じて、環境課題を解決し生活の質の向上と持続可能な社会の両立を実現する。

さらに、このビジョンのもと、持続可能な社会を構成する「脱炭素社会」「高度循環社会」「自然共生社会」の実現をめざしていきます。

環境長期目標 日立環境イノベーション2050

脱炭素社会をめざすために

バリューチェーンを通じてCO₂排出量原単位削減率

2050年度 **80% 削減** 2030年度 **50% 削減** (2010年度比)

事業所(ファクトリー・オフィス)において 2030年度 カーボンニュートラルの実現

高度循環社会をめざすために

お客さまや社会とともに水・資源循環型社会を構築

水・資源利用効率 2050年度 **50% 改善** (日立グループ内2010年度比)

自然共生社会をめざすために

自然資本へのインパクト **最小化**

方針

目標

102-11 | 102-15 | 103-2

環境長期目標の進捗

目標

活動・実績

「日立環境イノベーション2050」でめざす定量目標は「2021環境行動計画」(2019-2021年度)で策定されています。環境長期目標につながる代表的な目標の進捗は以下の通りです。概ね予定通りに進捗しており、長期目標の達成に向けて、一層の努力をしていきます。

脱炭素社会をめざして

製品・サービス				
	2019年度(実績)	2021年度(目標)	2030年度(目標)	2050年度(目標)
使用時CO ₂ 排出量原単位削減率(2010年度比)	19%	20%超削減	50%削減	80%削減
事業所(ファクトリー・オフィス)				
	2019年度(実績)	2021年度(目標)	2030年度(目標)	2050年度(目標)
CO ₂ 排出量総量削減率(2010年度比)	17%	20%超削減	100%削減(カーボンニュートラル)	(100%削減を継続)

※ CO₂排出量総量削減率は、自社で消費したエネルギーによるCO₂排出量の削減分や、購入した再生可能エネルギー電力量、非化石証書クレジットによる削減分を含む指標です。

「環境配慮設計アセスメント」による製品・サービスの環境性能の向上▶

事業所(ファクトリー・オフィス)における脱炭素社会実現への貢献▶

高度循環社会をめざして

水利用効率改善				
	2019年度(実績)	2021年度(目標)	2030年度(目標)	2050年度(目標)
水使用量原単位改善率(日立グループ内2010年度比)	26%	26%超改善	—	50%改善
資源利用効率改善				
	2019年度(実績)	2021年度(目標)	2030年度(目標)	2050年度(目標)
廃棄物有価物発生量原単位改善率(日立グループ内2010年度比)	14%	12%超改善	—	50%改善

水循環型社会の構築▶

資源循環型社会の構築▶

※ 数字の詳細については、当該ページで解説します

※ 2019年度は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響で工場の稼働率が低下し、CO₂排出量削減などにつながった可能性があります


環境行動計画

日立は、「環境ビジョン」と環境長期目標「日立環境イノベーション2050」の実現に向けて、中期経営計画の期間にあわせ、3年間の指標と目標を設定した「環境行動計画」を策定し、その実行を着実に進めています。

2021環境行動計画(2019-2021年度)

目標

活動・実績

 環境行動計画の達成度評価「GREEN 21」▶

日立は、「2021中期経営計画」の策定に合わせて設定した「2021環境行動計画」(2019-2021年度)のもと、環境活動に取り組んでいます。2019-2021年度の3年間の各年度に設定した目標と2019年度の実績は以下の通りです。なお、各目標の3年間の達成状況を評価・管理するためのツールとして「GREEN 21」を運用しています。

2021環境行動計画

環境長期目標を実現するために、3年ごとに環境活動項目と目標を設定

環境マネジメント

項目	指標	2019年度目標	2019年度実績(達成状況)	2020年度目標	最終年度(2021年度)目標
環境人財育成の推進	日立グループ環境人財の育成				
グローバル環境管理強化	ビジネスユニット(BU)、グループ会社による海外事業所環境監査自主実施率(実施事業所数/対象事業所数)	20%	26% ◆◆◆	50%	80%

脱炭素社会						高度循環社会						自然共生社会							
項目	指標	2019年度目標	2019年度実績(達成状況)	2020年度目標	最終年度(2021年度)目標	項目	指標	2019年度目標	2019年度実績(達成状況)	2020年度目標	最終年度(2021年度)目標	項目	指標	2019年度目標	2019年度実績(達成状況)	2020年度目標	最終年度(2021年度)目標		
製品・サービスのCO ₂ 排出量削減	CO ₂ 排出量原単位削減率(2010年度比)	19%	19% ◆◆◆	20%	21%	水循環(ファクトリー・オフィス)	水利用効率の改善 水不足への対応	水使用量原単位改善率(2010年度比)	23%	26% ◆◆◆	24%	26%	化学物質(ファクトリー・オフィス)	化学物質排出量の削減	化学物質大気排出量原単位改善率(2010年度比)	16%	21% ◆◆◆	17%	18%
気候変動に関するリスクと機会	リスクと機会の特定と見直しの実施						水リスク調査結果に応じた対策推進												
事業所(ファクトリー・オフィス)のCO ₂ 排出量の削減	CO ₂ 排出量原単位改善率*1(2010年度比)	7%	5% ◆◆	8%	9%	資源循環(ファクトリー・オフィス)	資源利用効率の改善 廃棄物の削減、再生利用	廃棄物有価物発生量原単位改善率(2010年度比)	10%	14% ◆◆◆	11%	12%	生態系保全	自然資本へのインパクト削減	負のインパクト算出(事業活動の環境影響評価)				
輸送のCO ₂ 削減	輸送エネルギー原単位改善率(日本)*2(2010年度比)	9%	7% ◆◆	10%	11%			正のインパクト算出(森林保全活動)							生態系保全への貢献	生態系保全活動の推進			

環境行動計画の達成度評価 「GREEN 21」

◆◆◆:達成 ◆◆:一部達成

*1 CO₂排出量原単位改善率:自社で消費したエネルギーによるCO₂排出量の削減分のみによる指標

*2 日本国内の目標であり、日本以外については任意目標

環境行動計画の達成度評価「GREEN 21」

制度

活動・実績

日立は、環境行動計画に定めた目標の3年間の達成状況を評価・管理するための仕組みとして「GREEN 21」を運用しています。

「GREEN 21」は、主要製造拠点(A区分)約200カ所の環境行動計画の目標達成状況をグリーンポイント(GP)に換算し、カテゴリーごとに評価しています。各カテゴリーの満点を100GPとして、環境行動計画各年度の達成状況に応じてポイント化し、意欲的な活動にはインセンティブとして加点しています。達成状況をGPで示すことで、各拠点におけるカテゴリー別の達成度や、拠点間の比較が可能となり、環境行動計画のPDCAに活用しています。

また、「GREEN 21」での評価結果は、サステナビリティ推進本部が、高いレベルで環境に配慮した活動を推進して成果を上げている事業所を「エコファクトリー&オフィスセレクト」として認定する条件の一つとして活用しています。

2019年度の実績

2019年度からは、「2021 環境行動計画」に基づいた新たなカテゴリー（環境マネジメント、脱炭素社会、高度循環社会、自然共生社会）ごとに達成状況を評価し、カテゴリーごとの評価点を合計した総合評価は、177GPと2019年度の基準点160GPを上回りました。高度循環社会の活動で、水リスクの評価が進んだことが基準点を上回った一因です。

■ 「GREEN 21」の2019年度評価結果(日立グループ)

..... 2019年度目標：160GP
 ■ 2019年度実績：177GP

